

持続可能な企業をめざして

三ツ星ベルトは、工業用ベルトの専門メーカーとして1919年、神戸で創業し、第二次世界大戦の動乱を乗り切った後、50～70年代、日本経済の発展とともに事業規模を拡大、90年代、バブル崩壊後の事業再編を経て今に至っています。

現在、関係会社を含む三ツ星ベルトグループは、工業用ベルト事業、建設資材事業、エンジニアリングプラスチック事業、金属製品事業、電子材料事業を手掛け、国内7ヶ所、海外8ヶ所に生産拠点を構え、全世界のお客様に製品とサービスをご提供しています。

経営方針に定めております社訓、基本理念、経営基本方針、また、経営戦略の各条項はいずれもESG経営の実践を指し示しており、これまで、社会的利益の追求と経済的利益の追求を事業活動の中で一貫して実践してまいりました。



経営方針

当社は、次世代の産業分野のニーズに対応できる製品づくりの観点から「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」ことを「経営基本方針」とし、また、従業員一人ひとりが「今日に誇りを持ち、明日に希望を託し行動する」を社訓とします。さらに、人にも地球にも優しい「人を想い、地球を想う」を「基本理念」と定め、当社グループ全体が社会の発展とともに共存共栄していくことを指針とします。

社 訓 : 今日に誇りを持ち、明日に希望を託し行動する

基 本 理 念 : 人を想い、地球を想う

経営基本方針 : 高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する

経営戦略

- 基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、SDGsに取り組み、環境との調和を目指した製品技術・生産技術などの開発により技術領域を広げていくとともに、地球規模の視野に立った環境保全活動を行い、持続可能な社会の実現に貢献できる企業づくりを推進いたします。
- グループ全体の資本効率の向上を図り、今後もより一層、企業体質を強化いたします。
- 世界的な技術競争に対応するために、研究開発体制、技術力の強化を図り、基礎技術の蓄積と活用能力を高めた製品開発のスピード化を推進いたします。
- 次世代を見定め、よりユーザーズに対応した高機能、高精度、高品質な製品を生産する製造ラインの実現に向け、生産システム並びに研究開発の機能充実を図り、独自の優位性を持った新しい考え方を採り入れた生産システムの確立に取り組みます。
- 世界的なコスト競争に対応するために、世界最適生産体制の確立とコスト競争力のある体質づくりを目指して取り組みます。
- 生産、販売及び物流体制の強化を図るため、立地面の優位性、効率性を重視し、国内外を問わず拠点の再整備を行い、引き続き一層の充実を図ります。
- 人材の確保と育成を図るため、新卒社員の採用並びに専門的知識と経験の豊富な人材の通年採用を積極的に進めるとともに従業員一人ひとりが多様で柔軟な働き方が実現できるよう働き方改革に取り組みます。

ESG 経営の深化

地球温暖化、環境破壊、人権侵害、ダイバーシティ推進、貧困問題、教育問題等、社会課題への取り組みの重要性が増す中、2020年度、社長が指名する担当役員が委員長を務めるSDGs推進委員会を設置、当社が取り組む6つのゴールを選定し、社会的利益の追求を一層強化する体制を整えました。

CSR 基本方針とSDGsへの取り組み

三ツ星ベルトグループのCSR活動は、基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、先進の発想と「高機能・高精度・高品質」を提供する高度な技術力の追求によって当社グループを取り巻くステークホルダー（株主・顧客・従業員・地域社会等）との共生を図り、継続して人と社会に貢献することで、快適で豊かな未来を目指してまいります。

社会への貢献

優れた技術に基づいた安全で信頼性の高い製品を提供することで、関係する取引先と連携し社会から必要とされる製品の一端を担うことにより、世界の「ものづくり」に貢献します。

地域社会との連携と協調

広く社会とのコミュニケーションを大切に、事業活動を果たしながら、地域社会との連携と協調を図り、共生することで社会に貢献します。

地球環境への貢献

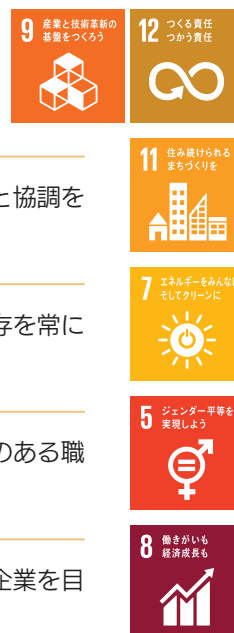
環境への負荷が少ない製品づくりやグループで環境保全を推進することで、地球環境との共存を常に意識した企業づくりを目指します。

人権の尊重

社会の人々と従業員の人権を尊重し、従業員一人ひとりが働きやすく、活躍でき、働きがいのある職場を提供できる企業を目指します。

経営統治の継続的強化

法令の遵守、適法な事業活動を継続し、当社グループもステークホルダーも共に成長できる企業を目指します。



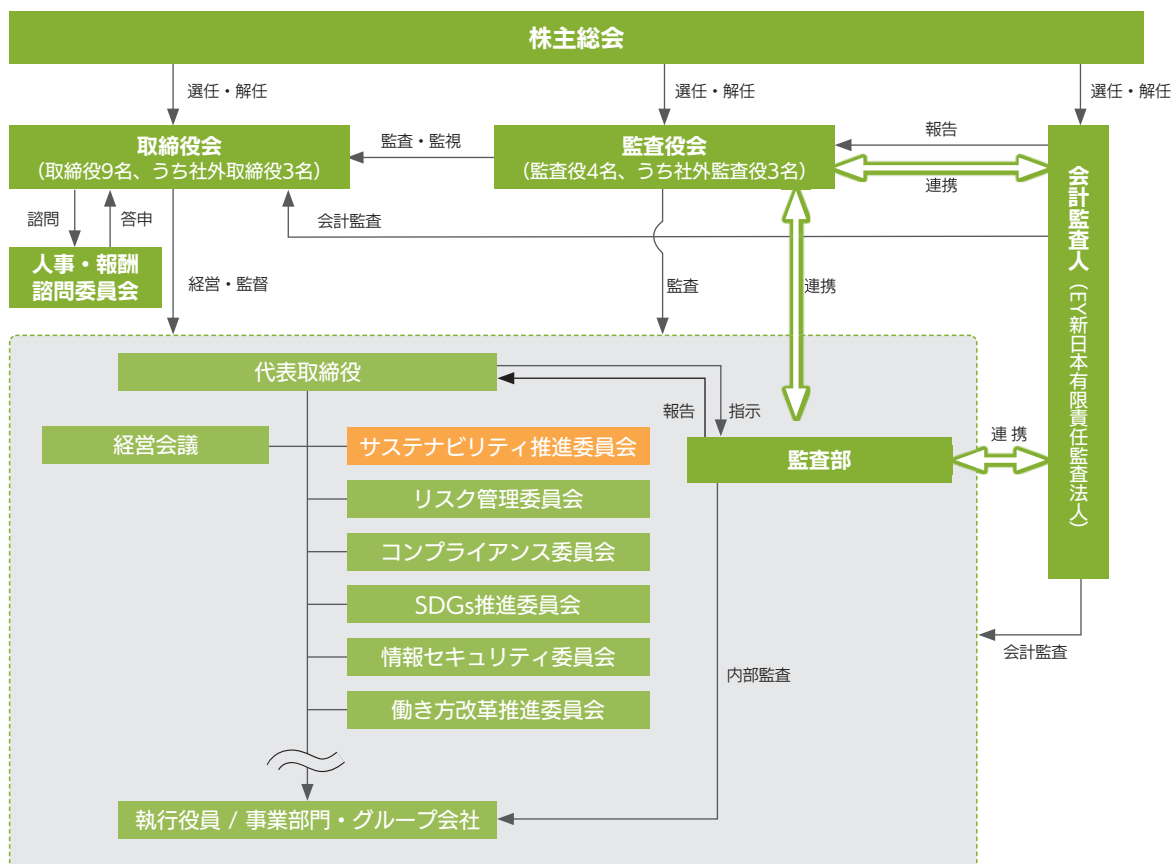
SDGs推進委員会 SDGsの推進

当社グループがSDGs活動を推進していくためには、従業員一人ひとりが主体的に取り組んでいくことが重要だと考えています。2022年度の本格的なSDGs推進活動に向けて、全社4分野（生産、販売、技術、間接）から選出された代表4部門による「SDGs実行計画進捗発表会」を開催しました。基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、各職場での身近な取り組み課題から2030年度に向けた持続可能な目標を掲げ、創意工夫を凝らし実直に取り組んでいる内容が発表されました。世界が直面している社会課題、ならびにSDGsの具体的な取り組み事例について、国内外全拠点で情報を共有しています。

サステナビリティ推進委員会 確実に迅速な目標達成を目指して

SDGs推進委員会活動は端緒についたばかりですが、2022年4月、社長が委員長を務めるサステナビリティ推進委員会を設置し、SDGsのゴールを三ツ星ベルトグループのESG経営におけるマテリアリティ（重要課題）としてとらえ直し、マテリアリティごとに実行課題とKPI（目標値）を設定、その実行内容をサステナビリティ推進委員会が監視、指示、判断、評価します。また、サステナビリティ推進委員会には8つのワーキンググループが設けられており、事業部門、関係会社から情報を収集・分析し、実施状況報告、戦略提案等を行うことでサステナビリティ推進委員会活動を活性化させ、より迅速で確実なESG経営の目標達成を目指します。

● サステナビリティ推進委員会を加えた新体制



マテリアリティの特定

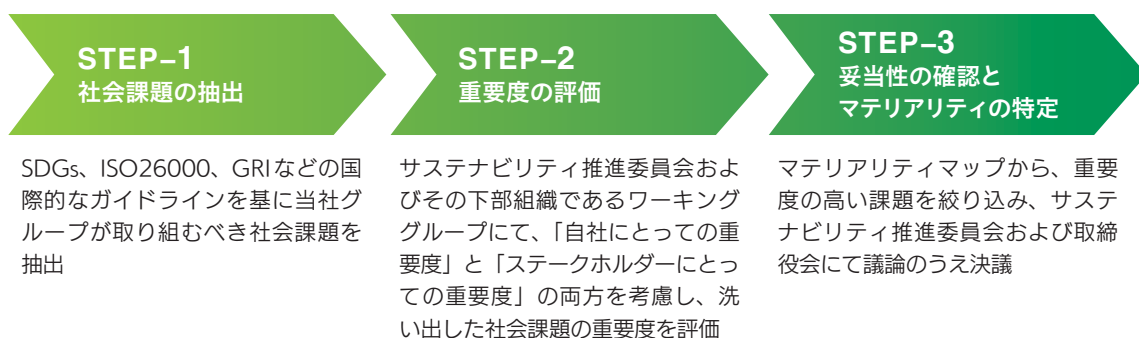
● 取り組むべき重要課題（マテリアリティ）

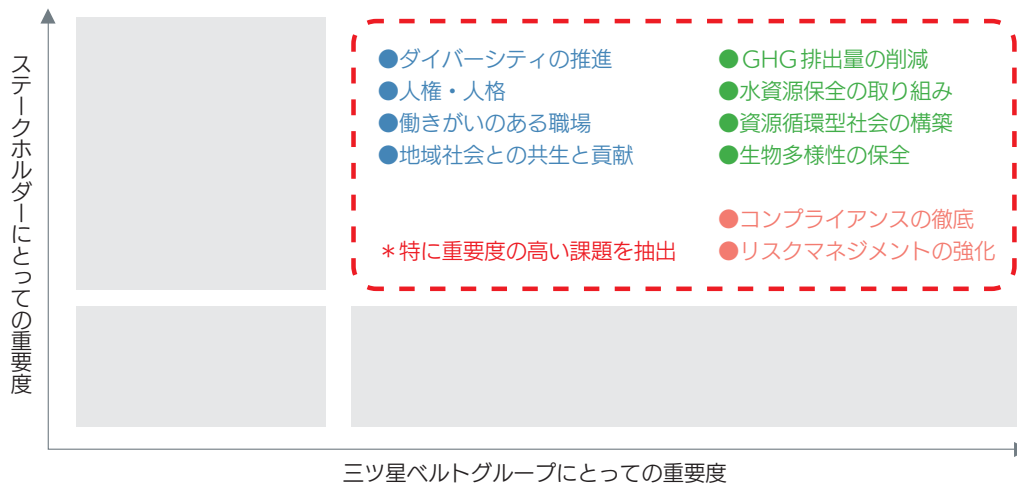
三ツ星ベルトグループは、基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、持続可能な社会の実現に貢献するため、当社グループが取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定しました。「環境」、「社会」、「ガバナンス」のESG課題の解決に向けた積極的な活動の展開を目指します。

● マテリアリティの特定プロセス

下記3つのステップにより三ツ星ベルトグループのマテリアリティを特定しました。

SDGs、ISO26000、GRIなどの国際的なガイドラインを基に当社グループが取り組むべき社会課題を抽出し、サステナビリティ推進委員会およびその下部組織であるワーキンググループでの議論を重ね、取締役会での決議をもって当社グループのマテリアリティを特定しました。





※ 上記図中の赤枠内に記載の課題は、記載テキストの位置によって重要度の高低を示すものではありません。

マテリアリティー一覧

特定したマテリアリティーについては、KPIを設定し、サステナビリティ推進委員会および取り組む課題毎に設けられたワーキンググループにて課題ごとの進捗度・達成度を確認し、当社グループ全社での取り組みをより力強く推進してまいります。

ESG項目	マテリアリティー	取り組む課題	目標および取り組み内容
E	気候変動対応	脱炭素社会実現への貢献	● CO ₂ 排出量 2023年度：22%以上削減 2030年度：46%削減 2050年度：カーボンニュートラル
			● 再エネ電力の導入 ：2023年度までに神戸事業所、四国工場へ導入。 CO ₂ 排出量 5,000t/年以上削減
			：2030年度までに綾部事業所、名古屋工場へ導入。 CO ₂ 排出量 9,500t/年以上削減、他拠点の導入具体化
			● 太陽光発電システムの導入 ：2030年度までに国内4拠点に導入。 CO ₂ 排出量 500t/年以上削減。
			● カーボンニュートラル燃料の導入 ：2023年度までに神戸事業所に導入。 CO ₂ 排出量 100t/年以上削減。他拠点の導入具体化
			● 低排出量燃料への切替 ：2025年度までに四国工場、綾部事業所で重油からLNGへ切替。CO ₂ 排出量 3,500t/年以上削減
			● 省エネ活動の推進 ：CO ₂ 排出量原単位を前年度比0.5%以上改善
			● Scope3排出量の算出 ：2023年度までにScope3算出方法の標準化および削減目標の設定
	環境保全への取り組み	● 資源循環型社会の構築	● 廃棄物の埋処分率目標：1%未満（ゼロエミッションの達成）の維持
		● 水資源保全の取り組み	● 水使用量削減目標 ：冷却水循環システムを導入し、2030年度までに国内拠点の水使用量を2021年度比半減する
		● 環境保全活動の推進	● エネルギー使用量の削減目標 ：エネルギー使用量原単位を前年度比0.5%以上改善
			● 化学物質排出・移動量目標 ：150t/年以下
			● VOC排出量目標 ：73t/年以下
		● 環境管理システムの維持	● 環境管理システム維持目標：全13サイトにおけるISO14001の認証の維持
		● 環境配慮型製品の開発	● 2022年度：環境配慮型製品管理体制の整備完了
S	社会的責任の遂行	人財戦略の強化	● ダイバーシティの推進 ● 女性管理職者数：2030年度までに2022年度比2倍以上(4%以上または7人以上)にする
		● 安全・健康	● 従業員の喫煙者割合：2030年度までに15%以下にする ● 従業員の肥満率（BMI 25以上の割合）：2030年度までに25%以下にする
		● 働きがいのある職場づくり	● 2023年度に従業員エンゲージメント測定方法を標準化し目標設定する
	人権と人格の尊重	● 人権デューデリジェンスの推進	● 2022年度：責任者を含めて管理組織を構築し、人権方針を制定して人権デューデリジェンス活動に着手する ● 2023年度：サプライヤーに人権デューデリジェンスの実施を要請し、必要に応じて説明を行い、実施状況を監視する
		● 全社行動基準の見直し	● 2022年度：三ツ星ベルトグループ行動基準を改定し、グループ全体への周知を完了する
G	経営の透明性向上と 廃除防止	ガバナンスの強化と充実	● ステークホルダーエンゲージメントの向上 ● 2022年度：TCFD提言に従った気候変動対応に関する情報開示の実施 ● 2022年度：CSRレポートの内容見直し
			● コンプライアンスの徹底 ● 2022年度：三ツ星ベルトグループ行動基準を改定し、グループ全体への周知を完了する
			● リスクマネジメントの強化 ● 2022年度：三ツ星ベルトの全事業拠点で事業継続計画の有効性を検証し、改善する

※ 当社CSRレポートにて上記それぞれの課題に対する当社取り組み進捗状況を記載しております。

◎ 三ツ星ベルトグループ 行動基準の改定

「三ツ星ベルトグループ 行動基準」は、事業活動における様々な場面での確な判断を行うために、また、全てのステークホルダーへの事業活動におけるコミットメントとして制定しております。サステナビリティ推進委員会活動を開始するにあたり、「三ツ星ベルトグループ 行動基準」を、我々が目指す ESG 経営を体現する具体的な内容に、見直いたしました。

三ツ星ベルトグループ 行動基準

1. コンプライアンス

- ・三ツ星ベルトグループが事業活動を行うそれぞれの国・地域における法令や社会規範を守り良識に沿った行動をします。
- ・企業倫理を尊重し、社内規程を遵守していかなる不正も行いません。
- ・コンプライアンス徹底のための方針や体制、通報制度などの仕組みに基づいて業務・教育を遂行します。

2. 人権・労働

- ・人格・人権の保護を支持、尊重します。
- ・人種、国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、宗教、信条、民族、移民、障がいの有無、貧困者、配偶者や子の有無その他いかなる理由があっても差別は行いません。
- ・虐待、体罰、あらゆる形態のハラスメント（嫌がらせ）などの非人道的な扱いや、個人の尊厳を傷つける行為は行いません。
- ・法令を遵守した適正な賃金を支払います。
- ・法令に基づいた労働時間を遵守し、休暇を確保します。
- ・あらゆる形態の強制労働を行いません。
- ・身分証明書または労働許可証の不当預かりや、預託金の不当徴収を行いません。
- ・法定就労年齢未満の児童は雇用しません。
- ・従業員の結社の自由と団体交渉の権利を保証します。

3. 環境

- ・環境上の課題に対する継続的な改善を行う環境マネジメントシステムを確立し、省資源や省エネルギーなどに取り組みます。
- ・GHG（温室効果ガス）の排出量削減に取り組みます。
- ・廃棄物の削減やリサイクルに取り組みます。
- ・排水・汚泥・排気の管理及び発生量の削減に取り組みます。
- ・水資源の有効活用や水リスクへの対応に取り組みます。
- ・製品中の化学物質を管理し、取扱量の把握、行政への報告などを行います。
- ・製品及び製造工程などにおいて法令で禁止された物質を使用しません。
- ・原材料を含む事業活動全般において、生物多様性の保全に配慮し、人と自然が共生する持続可能な社会の実現に取り組みます。

4. 公正な企業活動

- ・商道徳と自由競争を尊重した公正な取引を行い、私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法（不正競争行為、優越的地位の濫用など）は行いません。
- ・現地行政や公務員、また顧客や仕入先と適切な関係を構築し、腐敗を防止します。
- ・反社会的勢力・団体とのあらゆる関係を排除します。
- ・第三者の特許権、著作権、商標権などの知的財産権を尊重します。
- ・苦情や相談の窓口を設け、通報者保護を保証します。
- ・インサイダー取引を行いません。
- ・会社と利益相反となり得る状況を回避するよう行動します。

5. 品質

- ・経営基本方針「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」のもと、顧客に対する品質保証が最優先であることを認識して、業務を遂行します。
- ・安全で優れた品質の製品・サービスを提供します。
- ・クレームには誠意をもって直ちに対応します。

6. 安全衛生

- ・誰もが安心して働けるよう、従業員の安全衛生、健康についての適切な管理を行い、事故、災害を未然に防止します。
- ・安全衛生関係法令および安全衛生管理規程を遵守します。
- ・リスクアセスメントおよび安全衛生教育を通じて、労働災害を未然に防止します。

7. 情報セキュリティ

- ・守るべき情報資産を明確にしてそれらを適切に管理・保護します。
- ・情報セキュリティに関する法令及び契約上のセキュリティ要求事項を遵守します。
- ・情報セキュリティに関連する事故が発生した場合は、その原因を迅速に究明し、被害を最小限にとどめるとともに再発を防止します。

8. サプライチェーン

- ・仕入先に対して、当社行動基準に準じたCSRガイドラインを展開し、サステナビリティの取り組みの浸透・普及を徹底します。
- ・人権・環境などの社会問題を引き起こす原因となりうる原材料の使用による地域社会への影響を考慮した調達活動を行うこととし、懸念のある場合には、使用回避に向けた施策を行います。

9. 地域社会との共生

- ・地域社会とのパートナーシップを大切にします。
- ・地域社会の課題解決につながる社会貢献活動を行います。

10. 情報開示

- ・ステークホルダーに対し、適時適切に情報を開示して、企業活動の透明性を確保します。

2022年11月1日
三ツ星ベルト株式会社

● コーポレート・ガバナンスの強化

2021年3月に経営陣の選任・解任・報酬等に関する取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化する目的で、取締役会に対する諮問機関として「人事・報酬諮問委員会」を設置する等、コーポレート・ガバナンスの強化、充実を図ってまいりました。

また、当社の中期経営計画等の実現に向けた取り組みの推進と、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、企業価値向上を目的として「譲渡制限付株式報酬制度」を導入しました。

2022年6月に開催されました定期株主総会におきまして、女性の社外取締役1名と女性の監査役1名を選任いたしました。取締役会の機能性を向上させるとともに、ダイバーシティの推進における起爆剤にしていきたいと思っております。

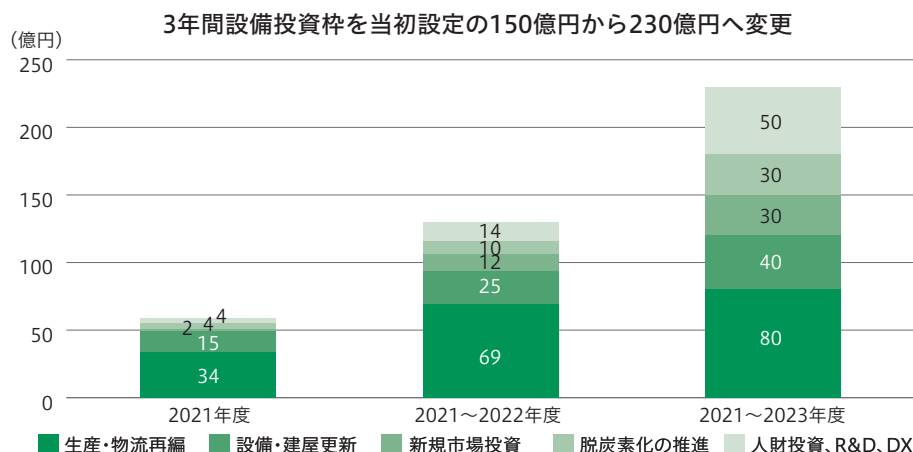
2030年度の「ありたい姿」

新型コロナウイルスのパンデミック、全世界的に発生する異常気象とそれに伴う気候災害、ロシアのウクライナ侵攻等、目まぐるしく変化する社会情勢の中、2022年5月、「21 中期経営計画の見直し」を、あわせて2030年度の「ありたい姿」を発表しました。その中では、ESG経営で実行する非財務活動項目である環境保全と人財戦略におけるありたい姿を説明しています。

新しく設置いたしましたサステナビリティ推進委員会を中心にして、2030年度のありたい姿以上の企業を目指し、ESG経営を展開し、企業価値の向上に努めてまいります。

2030年度の「ありたい姿」

ESG	持続可能な社会の実現への貢献（社会的・経済的価値の向上） - ESGに関わる社会課題への積極的な取り組みを推進し、ESG・外部格付け機関による最高ランクの取得を目指す - CO₂排出量の削減目標値（2013年度比）～2050年度カーボンニュートラル達成へ向けて 2023年度：22%以上 2030年度：46% 2050年度：カーボンニュートラル
人財戦略	変革を推進する人材の育成 「人」の力を最大限に発揮できる人事制度、教育制度、職場環境の充実 - 多様性を尊重した新しい発想、変革を恐れないチャレンジ精神を大切にする「企業風土」の醸成
財務目標	収益性 - 売上高：1,000億円（既存事業：850～900億円、新規事業：100～150億円） - 営業利益額：130億円 - コア事業の体質を強化し、更なる収益性の向上 - 持続的成長が可能となる新たな成長分野への投資 - 環境配慮型製品の開発および販売体制の強化 - ソリューションビジネスの展開 - M&A、オープンイノベーション 資本効率性 - ROE：10% - 財務体質の強化から、資本効率の向上への進化 株主還元 / 設備投資 - 中長期的な企業価値向上を図る資本政策 - 持続可能な社会の実現につながる研究、次世代を担う高機能、高精密、高品質な製品開発・生産システムへの積極的な投資 - 成長投資への原資を確保したうえでの株主還元の充実



● 気候変動への対応

私たちは地球温暖化の主要原因である二酸化炭素を大量に発生させて今の繁栄を勝ち取ってまいりました。言い換えれば気候変動により被る様々な災害の代償は既に繁栄という形で受け取っています。しかし、世界を見渡せばこの繁栄を受け取っていない人々は大勢おられ、そのような人々ほど被災時の補償が十分でないのが現実です。また、これから生まれてくる子供たちが生まれながらに気候災害のリスクにさらされる状況を見過ごすことはできません。

三ツ星ベルトグループはこのような背景とそこから生まれる私たちに課せられた責任をしっかりと認識し気候変動対策に取り組んでまいります。具体的には前述の「マテリアリティ一覧」に示したように“どこで”、“どのようにして”、“どれだけ”の“CO₂排出量を削減するかをKPIとして明確にし、サステナビリティ推進委員会においてトップマネジメントの監視のもと、これらKPIの迅速で確実な達成を目指します。

地球を温暖化させたのは私たちです。責任を持って、地球温暖化の抑制に取り組み、いわれなく気候災害のリスクにさらされる人々の安全と安心に貢献してまいります。

● 水資源の保全

水道水をそのまま飲むことができ、非常に安く水を手に入れることのできる日本に住んでいると水資源の保全に関する活動が疎かになりがちです。実際に三ツ星ベルトグループでは、主力製品である伝動ベルトを海外生産拠点の三分の一しか生産していないにもかかわらず、国内生産拠点が海外生産拠点の2～3倍の水を使っています。それでは日本で水の問題がないかということ、“渇水”は毎年日本のどこかで発生しています。

三ツ星ベルトグループでは遮水シートの製品とサービスの供給を通じて水資源の保全活動に参画していますが、一方でこのような無駄遣いを行っていることを重く受け止め、2030年度までに国内の水使用量を2021年度比で半分にするという目標を掲げ水資源の保全活動に取り組んでまいります。

● DXによる働き方改革

三ツ星ベルトグループが受けるお客様からの改善要望はヒューマンエラーが原因であることがほとんどであり、これまで生産工程、物流工程を中心に“自動化”を進め改善に取り組んでまいりました。今後もこの活動は継続し、AIを取り入れて自動化の範囲拡大、機能向上を進めてまいります。

技術分野ではシミュレーション技術の活用を力を入れており、その解析結果はお客様にも好評をいただいております。材料設計においてもCAE解析、AIなどを活用し、製品開発における生産性向上に取り組みます。

COVID-19のパンデミックにより営業、間接部門では、テレワーク、web会議が一気に浸透しました。それに伴いRPAの採用も進み、時と場所を選ばない働き方が普通になりつつあります。しかし、この流れに偏重することなく働き方の一つととらえ、生産性の向上だけでなく従業員エンゲージメントの向上にも活用してまいります。

● 多様性の尊重と人権デューデリジェンス

種の存続に多様性が不可欠であることは生物学上の理ですが、企業にとっても同じことが言えると思います。不確定に変化する経営環境に対応していくためには、多様な考え、知識、スキルから生まれるイノベーションが必要です。男女格差の是正、高齢者雇用、障害者雇用、子育て支援等の法令を遵守するだけでなく、業務の中で個を尊重することで三ツ星ベルトグループを持続可能に導きます。

一方、多様性の尊重は差別の撤廃、人権の尊重に結び付きます。また、三ツ星ベルトグループの経営理念「人を想い地球を想う」にも通じます。三ツ星ベルトグループは国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に示された人権を尊重する企業の責任を確実に果たすとともに、人権デューデリジェンスの実施体制を構築、継続的な改善活動を実施してまいります。また、取引先にも本活動の主旨にご賛同いただき人権デューデリジェンスを実施していただけますよう働きかけてまいります。